

事務事業マネジメントシート(平成28年度実績と平成29年度計画)

平成29年 5月12日 更新

事務事業名		解放子ども会学習会開催事業					☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	3	教育の健康					所属部	教育委員会事務局	課長名	飯開 輝久雄	
	施策	12	人権が尊重される社会づくり					所属課	人権啓発教育課	担当者名	古澤 沙也加	
	施策の柱	43	人権尊重についての理解と相談体制の充実					所属班	啓発教育班	(内線)	2513	
予算科目		会計一般	款10	項5	目4	事業連番10861	根拠法令	成果優先度評価結果 : ⑤ コスト削減優先度評価結果 : ⑤				
終了、開始年度		☐ 28年度で終了 ☐ 28年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 50 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	昭和46年頃、同和教育推進教員(当時)の配置により、同和地区子どもたちの部落差別の解消を目的に始まった。解放子ども会(小・中・高校生)学習会は、解放子ども会会員(市内の児童・生徒)を対象に解放学習や教科学習を主に実施している。
【業務の流れ】	5月の開講式の際に小・中・高校の先生へ学習会講師の委嘱を行う。開講式前までに解放子ども会会員、講師の委嘱を行う先生へ保険をかける。8月は合同キャンプを開催する。年3回(4ヶ月に1度)学習会講師へ謝金を支払う。学習会開講式、閉講式に出席する。開講式時には、委嘱状交付があるので、事前に委嘱状の準備をする。12月に団結餅つきを行う。その他、学習会に必要な用品の購入を行う。(随時)
【主な予算費目】	職員手当等、報償費、需用費、役務費、委託料
【意見や要望】	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 28年度実績(28年度に行った主な活動) (DO) 解放子ども会学習会(小学校・・週1回、中学校・・週2回、高校・・週1回)及び、人権教育子ども学習会(中学校・・週1回)を開催した。8月に解放子ども会、人権教育子ども会の小・中学生合同のキャンプ、12月に団結餅つきを実施した。		29年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN) 前年度と同じく学習会の開催と、8月は解放子ども会、人権教育子ども会の小学生・中学生合同キャンプを実施する。また、年末には団結餅つきを行い、会員、講師、地域の交流を深める。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回	予算の主な増減の理由
→ ア: 学習会開催回数	回	時間外勤務手当の増、役務費(安全保険料)の増、委託料(キャンプ時のバス)の増
→ イ: 学習会参加者数(延べ人数)	人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
解放子ども会会員(児童・生徒)		→ ア: 解放子ども会会員数
		→ イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
差別に負けない力をつけることができる。		→ ア: 差別を見抜く力を身につけた人の数
		→ イ:
* ③ 成果指標設定の理由と29年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
差別を見抜く力を身につける事が差別に負けない力をつけることにつながるため。目標値は解放子ども会会員数		全体計画
		～ 年度
		0

(2) 各指標・総事業費 の推移		単位	26年度 実績(決算)	27年度 実績(決算)	28年度 目標(当初予算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	30年度 予定	31年度 見込	32年度 見込	
① 活動指標	ア 回		155	146	200	127	200	200	200	200	
	イ 人		536	699	900	1,006	900	900	900	900	
② 対象指標	ア 人		42	20	50	38	50	50	50	50	
	イ										
③ 成果指標	ア 人		42	20	50	38	50	50	50	50	
	イ										
投 入 費 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円								
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	1,775	1,635	2,111	1,990	2,069			
	(A) 事業費計	千円	1,775	1,635	2,111	1,990	2,069	0	0	0	
		(A)のうち指定経費	千円	127	117	175	143	180	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	127	117	162	130	167	0	0	0
	人 件 費	正規職員従事人数	人	4	2	4	3	4	0	0	0
		延べ業務時間	時間	655	250	320	300	320	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	2,609	928	1,274	0	1,274	0	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	4,384	2,563	3,385	1,990	3,343	0	0	0	

事務事業名	解放子ども会学習会開催事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	人権啓発教育課
-------	---------------	-----	----------	-----	---------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は28年度の事後評価、ただし複数年度事業は28年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①28年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【理由】 子どもの数が減少している事により、会員数は減ったものの、参加された子ども達はみんな、差別を見抜く力を身につける事が出来た。
	②29年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 学習会に参加された子ども達は、学習会やキャンプ等を通して、仲間づくりや部落問題についての学習を深める事ができる。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 子どもたちが参加しやすいように学習会の内容を検討することにより多くの子どもたちの参加が見込める。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 類似事業はほかにない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最低必要な経費のみを計上しており、これ以上の削減は見込めない。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限の職員で対応しており、これ以上の人件費の削減は見込めない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 解放子ども会の参加者は、市内の児童・生徒であり、差別に負けない力の育成をめざし学習を行っているため、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 差別をなくす取り組みは、行政の責務であり、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

参加した子ども達は、部落問題について学習を深め、差別を跳ね返す力を身につけることが出来た。キャンプでも、仲間づくりやみんなで協力し合って作業する事等いろいろな事を学ぶ事が出来たが、子どもの数がだんだん減ってきており、学習会の参加人数も徐々に減少しつつある。今後、子ども達が参加しやすいよう内容を考えていく必要がある。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可

☐ 廃止

☐ 休止

☐ 目的再設定

☐ 事業統廃合・連携

☐ 事業のやり方改善（有効性改善）

☐ 事業のやり方改善（効率性改善）

☐ 事業のやり方改善（公平性改善）

☐ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）

今後も活動を続け、子供たちが差別に負けない心を持てるよう事業を行っていく。

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策